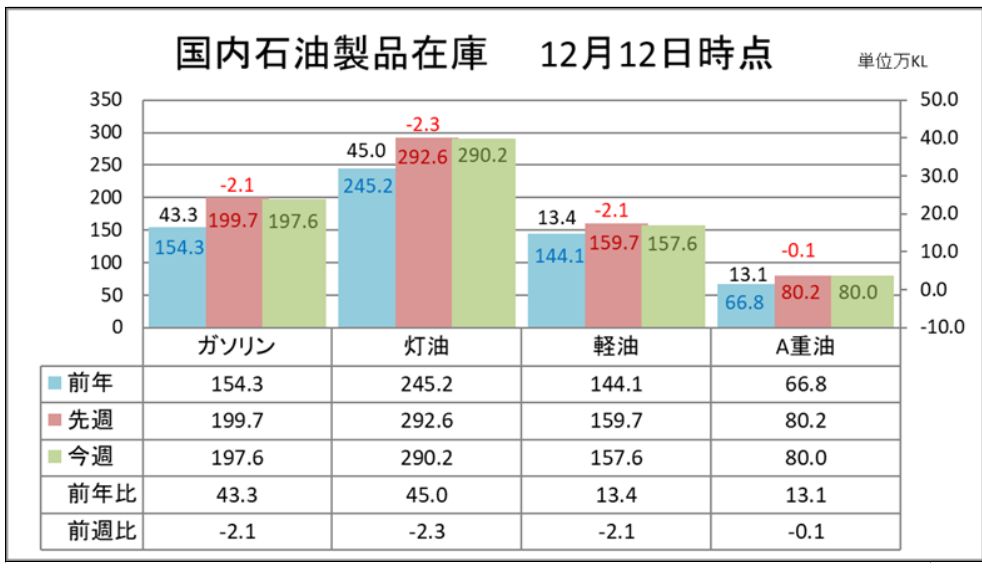
イデックスオイルレポート　~For a week~

2020/12/18作成　㈱新出光

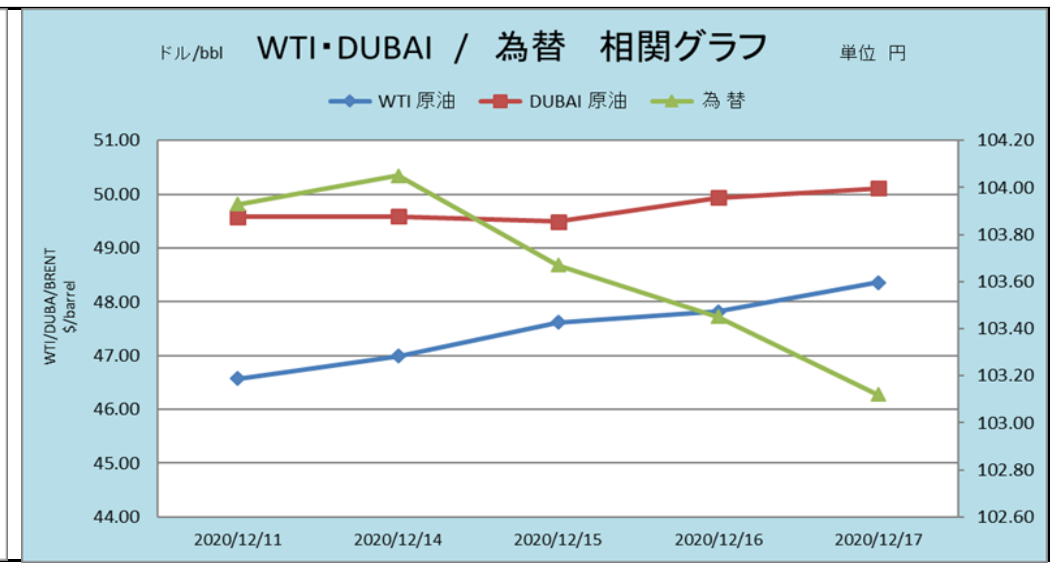
【概況】　＜WTI原油底堅く推移＞

●11日、週末を控え前日に9か月ぶりの高値を付けたことで、利益確定の売りが優勢になりました。また、英国では新型コロナウイルスのワクチン接種が開始され、米国での承認も近いと見られていますが、米国内での感染者数増加を受けて原油需要の回復が遅れるとの見方が広がったことも圧迫要因になったようです。
●14日、前週末に米食品医薬品局（FDA）が米製薬大手ファイザーの新型コロナウイルスワクチンについて緊急使用許可を承認したと発表したことを受け、経済の正常化が早まるとの期待感を背景に買い戻しが優勢となりました。その後は石油輸出国機構（OPEC）が発表した月報で原油需要見通しを下方修正したことが嫌気され戻り売りが優勢になると、一時は45.69ドルまで下落するなどマイナス圏に沈む場面も見られました。
●15日、国際エネルギー機関（IEA）が原油需要見通しを前月から下方修正したことが圧迫要因になりました。ただ、米ファイザーと独ビオンテックが開発したワクチンの接種が開始されたことを受け、経済の早期回復期待が広がるなか買い戻しが優勢となり上昇に転じました。この日は米株式市場も上昇しており、ナスダックは1週間ぶりに最高値を更新するなどリスクオンムードが強まったことも支援要因となり一時47.73ドルまで上昇しました。
●16日、米石油協会（API）が発表した週報で原油在庫が市場の減少予想に反して積み増しとなったことが圧迫要因となり、47.6ドル付近で上値の重い展開が続いていましたが、米エネルギー情報局（EIA）が発表した週報で原油在庫が市場予想を上回って減少したことや製品在庫が市場予想ほど増加しなかったことが支援要因となり、買い戻しが優勢になると47.94ドルまで上昇しています。
●17日、米連邦公開市場員会（FOMC）で米連邦準備理事会（FRB）が量的緩和の長期化を示したことが支援要因となり一時48.59ドルまで上昇し、10ヵ月ぶりの高値を付けましたが、その後は利益確定の売りが優勢となり上昇幅を縮小しました。

12月18日	17:00現在	WTI原油	48.20ドル	為替　1ドル	103.35円



	ガソリン	灯油	軽油	A重油
前年	154.3	245.2	144.1	66.8
先週	199.7	292.6	159.7	80.2
今週	197.6	290.2	157.6	80.0
前年比	43.3	45.0	13.4	13.1
前週比	-2.1	-2.3	-2.1	-0.1



	次回元売変動予測 12/24～	元売変動予測
ガソリン	↗	+1.0～+1.5
灯油	↗	+1.0～+1.5
軽油	↗	+1.0～+1.5
A重油	↗	+1.0～+1.5
LSA	↗	+1.0～+1.5

※現段階の原油コストによる予想です。

【製品卸価格】　＜灯油需要本格化へ＞

≪今週≫今週の元売り仕切り改定は「+1.0円」の値上げ改定でした。原油コストとしても+0.5か+1.0円なのか判断が微妙なところでしたが、改定後はおおよそ値上げが浸透しました。影響力のある広域ディーラーも値上げや油種によっては出荷停止となったことも相場を押し上げる要因となりました。灯油も全国的な寒気から需要は徐々に増加しており、値上げは浸透してきています。
≪12月19日以降≫来週の元売り価格改定は「+1.0～+1.5円」の値上げ予測です。原油も先高観が強く、月間リンクでの仕入れ玉も値下げでの販売には慎重になっているようですが、月内のコストもおおよそ見えてきたことから安値としては現在の値位置での販売が続くことが予測されます。また東日本を中心に配送遅れや回転数の低下など、雪や時化などの季節的な影響が出始めていますが、営業日数も残り10日程度となっており、来週いっぱいで年内業務を終える業者もいることから、早めの消化を進めたい思惑があり、市況の上がりづらい状況は続きそうです。

【トピック】　＜日本海側の時化で出荷停止や配送難＞

沖から陸に向かって季節風が吹くために波が荒くなり、船がつけられない状況（時化）が原因で日本海側では転送船の遅れから、出荷規制が頻発しています。秋田・酒田・東新潟・福井で基地毎に油種は異なるものの、出荷枠の制限や週末分としては、出荷不可となる油種も多く見られます。日本海側をメインとしている需要家からは規制の影響から基地の振り替えもできず困惑している状況も窺えました。加えて上野輸送による無印車両の減少なども配車繰りを圧迫しているようです。また先日の大雪によって内陸部では通行止めや立ち往生など陸路での回転数の減少や配送難により、配送ローリーが捕まらないなどの影響が出てきています。ただ、このような状況であれば、配送優先となりやすいことからも市況が上がりそうなところですが、現状では月内の枠消化のために市況の上げには繋がってはいないようです。

© 2020 SHIN-IDEMITSU Co.,Ltd.ALL rights reserved.